

編集ノート

研究環境が変化している。研究に便利か、役立つのか。いまさういうまでもない。電腦機器を利用したウェブの集合体は、巨大なひとつの仮想図書館を形成しつつある。問題を思いつき、証明するために必要な書籍、論文を求めて活動する。それが研究の基本である。今でもそう考えている。そこに変わりはない。資料収集は自分の足を運ぶことで実現した。現在はそれなしで、つまり電字で読むことができるようになった部分がある。論文の引用文献に「電字版」と示したのがそれだ。加えて「複写版」と記したのは、その電字版を書籍のかたちに複製したもの。アメリカ系ウェブ書店に注文すれば、簡単に入手できる。資料の制約によって調査が進まなかった分野でも状況が違ってきている。個人電腦発展の中期よりいくらか体験しているからこそ強く感じる。文書作成と印刷、加えて文献整理をほそぼそと続けていたのを思い出す。はじめからウェブを利用している人には、当たり前すぎて理解できな

いかかもしれない。だが、万能ではないのも事実だ。あるウェブサイトでは、資料を公開しているように見える。ところが、実際には利用上の制限をもうけていたりする。全部が全部、奉仕の精神で動いているわけではない。そういう部分が残ってはいるにしても、資料の検索と入手について、便利になりつつあるのは間違いない。では、電腦を操作し各種ウェブサイトを見るだけで、研究上の発想がわいてくるのか。これはむつかしい。セイロンの3王子ではない。自分が歩く目の前に予期せぬ発想が落ちていたとは思えない。電腦化できる箇所と、それになじまない部分がどうしても残る。そこがすなわち個人の発想力が必要とされる場所にほかならない。思わず長くなった。本第35号をもって年刊『清末小説』の刊行を終了する。これまで、かわらぬ支持と応援をしてくださった研究者、読者、印刷所に心から感謝します。☐

清 末 小 説 第35終刊号
定 価 3,150円(本体3,000円)
発 行 2012年12月1日
発行兼編集人 樽本照雄
発行所 清末小説研究会
〒520-0806JAPAN滋賀県大津市打出浜
8 番4-202 樽本方
郵便振替 00990-6-40475
http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto
印刷所 木村桂文社